

2016年  
10月中国四国農政局  
愛媛県拠点

コスモス畑

# News Letter

## 優れた味と豊かな香りを食卓に ～えひめ産乾しいたけ～

海や山など豊かな自然環境に恵まれた愛媛県は、クヌギ等の資源を活用したしいたけの原木栽培が盛んで、乾しいたけは全国有数の生産量を誇ります。

そこで、今回は、今年の県しいたけ共進会審査会（県、県森林組合連合会主催）において、「箱物」の部で林野庁長官賞、「ほだ木育成」の部で農林水産大臣賞に輝いた大洲市の増田敏和さんを訪ねました。

しいたけの原木栽培は、種菌を植えるための「ホダ木」の準備から始まります。秋、クヌギの紅葉が始まると伐採適期で、増田さんは時期を逃さず伐採し、水分調整や玉切りなどを行い、毎年新たに1万本のホダ木を確保します。そして、毎年3月には35～40万個の植菌を行います。

高品質のしいたけを生産するためには、ホダ木を置く「ホダ場」の管理が重要となります。増田さんは、「ホダ場は、適度の水と陽と温度の管理が大事。陽が当たらないと、太りも色も悪くなる」と言います。増田さんのホダ場は、灌水施設が整備され、徹底した枝打ち、間伐などでとても明るく整然としています。中には、木が伸びないように「芯止め」された専用ホダ場もあります。



適切な栽培環境に整備されたホダ場

植菌する種類には、翌年の12月に芽が出始める形成菌と、翌々年の12月に芽が出始める駒菌があって、冬から春にかけて収穫が行われます。増田さんは、「しいたけをたくさん生やすことは簡単だが、大きく肉厚なものを作るためには、芽の数を調整して分散発生させることがコツ」と言います。また、優良品作りのためにしいたけ個々に袋かけを行うなど品質管理も怠っていません。収穫した後は、乾燥機に並べて30時間ほど乾燥させ、良質の乾しいたけに仕上げます。

現在、増田さんは、両親と3人で4万本を超えるホダ木の管理を行っており、ホダ木1000本当たりの製品重量が一般的に30kgと言われる中で、45～50kgを生産しています。



ホダ木に生えるしいたけ

ホダ木は4年ほど栽培に使われ、役目を終えて土に還ります。また、伐採したクヌギ等には芽が生え、15～20年ほどで再びホダ木を切り出せるまでに育ちます。原木栽培は、まさに環境に優しい資源循環型の農業です。

増田さんは「代々受け継がれてきたしいたけ栽培を続けることは当たり前。しっかり稼げて魅力のある仕事にしていき、息子が“しいたけをやりたい”と思えるような産業にしていきたい」と熱い思いを語られました。

肥料や農薬を一切使わず、自然の力を活かした原木栽培は、味・香り・歯触りが良く、安心して食べることができます。また、乾しいたけには、三大うま味成分の一つであるグアニル酸が多く含まれ、ダシ取りにも最適です。皆さんも乾しいたけの優れたうま味と香りを存分に味わってみてはどうでしょう。



乾燥された良質の乾しいたけ



## 無茶々園(西予市) 天皇杯受賞 ～平成28年度(第55回) 農林水産祭～

平成28年度(第55回)農林水産祭の「むらづくり部門」で、地域協同組合「無茶々園」(西予市)が最高位の天皇杯を受賞しました。農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施されています。過去1年間の表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞した509点の中から、むらづくり部門など7部門で、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会長賞の3賞が選ばれました。



西予市狩浜地区



無茶々園の多様な加工品

無茶々園は、昭和49年、農薬や化学肥料の使用を前提とした近代農業に疑問を持った青年農業者3名が、西予市狩浜地区の急峻な段々畑の一角で、15aの農地を借り受け伊予柑の有機栽培を開始。近年では柑橘の有機栽培や加工品の製造・販売に取り組む一方、女性が活躍する介護事業や配食サービス、ジオポイントの段々畑の観光など、雇用の場を創出し、地域の活性化に取り組んでいます。

また、みかん収穫体験や食育授業など都市消費者等との交流を行うとともに、漁業者と連携して化粧品ブランドの設立や水産物の加工・販売にも取り組み、地域環境の保全と漁業振興を図っています。また、高齢者の生きがい創出のための地域づくり活動にも取り組んで成果を上げており、この活動が条件不利地域のむらづくりのモデルとなることが期待されています。

## 産地一丸で高品質、安定生産に取り組む ～平成28年度 愛媛県園芸大会～

柑橘など本県果樹の生産状況や販売計画を報告する「平成28年度愛媛県園芸大会」(愛媛県、JA全農えひめ、県果樹同志会主催)が10月19日、松山市のえひめ飲料で開催され、生産者やJA役員、市場関係者など約500名が参加しました。

今年産の温州みかんの生産状況について、主催者などから、「梅雨時の長雨や7月以降の高温干ばつ、9月以降の台風の影響による長雨など、目まぐるしく変化する気象条件の中で、肥培・品質管理に苦労や心配が絶えない状況であった。その中で、高糖度で酸抜けが良く、食味レベルの高い果実に仕上がっている」との報告があり、好調な販売が続く極早生から主力の早生にスムーズに販売をつなげられるよう、産地が一丸となって高品質な果実を安定的に供給していくことを確認しました。



主催者による開会あいさつ

編集:中国四国農政局 愛媛県拠点

〒790-8519 松山市宮田町188番地 松山地方合同庁舎

TEL (089)932-1177 FAX(089)932-1872 <農政局HP><http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆各種メールマガジンを配信中(登録はこちらから) <http://www.maff.go.jp/chushi/mailm/index.html>